11月12日 いいひふ ひふの日

皮膚はあなたの健康を守っています

増えているアトピー性皮膚炎を知ろう

あす11月12日は「ひふの日」です。皮膚についての正しい知識の普及と皮膚科専門医療への理解を深めてもらうため、「イイヒフ」の語呂に合わせて日本臨床皮膚科医会が1989年に制定しました。アトピー性皮膚炎は3大アレルギー疾患の一つで、患者数は子ども、大人とも増加傾向です。川崎医科大学皮膚科学の青山裕美教授にアトピー性皮膚炎の原因や治療法など聞きました。

川崎医科大学皮膚科学
青山　裕美 教授

あおやま・ゆみ　岐阜大学医学部卒。同大医学部付属病院、米マサチューセッツ総合病院、岡山労災病院など経て、2010年4月に岡山大学大学院医歯薬学総合研究科皮膚科学講師。同准教授を務めた後、15年4月から現職。川崎医科大学附属病院皮膚科部長。日本皮膚科学会皮膚科専門医。

皮膚のバリア機能低下

―アトピー性皮膚炎はどんな病気ですか。

かゆみのある湿疹が悪化したり改善しながら慢性的に続く皮膚炎です。顔や肘、膝など特定の部位に発症する特徴があり、アトピー素因のある人に発症しやすいといわれます。アトピー素因とは家族や本人がアトピー性皮膚炎や気管支ぜんそく、アレルギー性鼻炎などの疾患を経験したかどうかです。10歳以上になると自然に治る人も多いのですが、大人になっても良くならない人が増えています。

―原因はなんですか。

まだはっきり分かっていませんが、汗やほこりの刺激、食物やダニのアレルギー、精神的・肉体的ストレスが悪化要因になります。皮膚が乾燥し皮膚のバリア機能が低下して起こるとも考えられています。皮膚のバリア機能が低下することで、アレルギーを起こす原因物質（アレルゲン）が体内に入りやすくなり、炎症を起こすようになります。また皮膚の角層をつくるフィラグリン遺伝子に異常があれば、バリア機能が低下しやすくなります。日本ではアトピー性皮膚炎の患者のうち約3割にフィラグリンの異常が見つかっています。また患者の血液中にはアレルギーを引き起こすＩｇＥ（免疫グロブリンＥ）や TARC（Th2ケモカイン）が高い濃度で存在することも分かっています。

外用薬と保湿剤を併用

―どんな治療を行いますか。

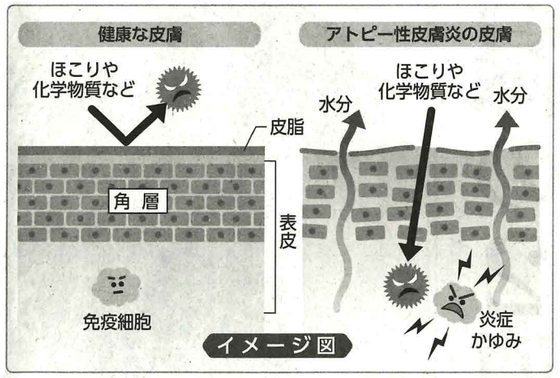
基本的には、外用薬と保湿剤を組み合わせて改善を目指します。外用薬のうちステロイド外用薬は炎症を抑えるための基本治療薬です。効果は大きいですが、副腎皮質ホルモンを含んでおり、長く使っていると皮膚が薄くなる副作用を心配される方もいます。症状が軽くなれば、効き目の弱いものに変えていきます。リバウンドを起こさないために、免疫抑制剤のタクロリムス外用薬や保湿剤に変えていくことが推奨されています。適切な時期に適切な薬を使うことが大事です。またこうした治療で効果が見られないときには抗体医薬品「デュピルマブ」という薬も今年承認されています。小さい時に治しておけば、成人型に移行しにくいので小さいうちに治療しておくことが大切です。

ヘルペスなどに要注意

―感染症の心配は。

皮膚のバリア機能が低下すれば、ウイルスや細菌による感染症を合併しやすくなります。主なものはヘルペス（単純ヘルペス）、とびひ（伝染性膿痂疹）、みずいぼ（伝染性軟属腫）などが考えられます。

［ヘルペス］のウイルスは、どこにでもいて傷ややけどなど皮膚の異常があるところに付着しやすい性質を持っています。アトピー性皮膚炎で皮膚のバリア機能が壊れていればウイルスの侵入を容易にします。ヘルペスが重症化すれば病名が変わり「カポジ水痘様発疹症」となります。［みずいぼ］は、伝染性軟属腫ウイルスが原因です。表面に光沢のある直径数ミリの皮膚の盛り上がり（丘疹）ができます。周りはとてもかゆく、掻いたりしていると「とびひ」を起こすこともあります。［とびひ］は、ブドウ球菌や溶血性連鎖球菌などが原因菌です。火事の飛び火のように素早く広がることから「とびひ」と呼ばれています。あせも、虫刺され、湿疹などをひっかいたり、転んでできたりした傷などにも二次感染します。水疱ができて皮膚が剥けることが多い水疱性膿痂疹と、炎症が強くかさぶたが厚い痂皮性膿痂疹の2種類があります。



日頃のスキンケア大切

―日常のケアはどうしたらいいですか。

薬を正しく使うことは当然ですが、皮膚を常に清潔に保つためのスキンケアは大切です。皮膚の汚れは湿疹をひどくする原因にもなります。お風呂はぬるめにし、ごしごし洗いは避けましょう。潤いを与える塗り薬などは効果的です。下着も、肌に優しい素材を選びましょう。また、かゆいところを掻くと症状がひどくなることもあり、つめは短く切っておきましょう。部屋のほこりやダニが悪化の原因にもなるので、こまめな掃除も心がけてください。

ひふの日 市民公開講座

みんなで学ぶ 皮膚の病気

座長　浅越 健治先生
独立行政法人 国立病院機構 岡山医療センター
皮膚科医長

講演

「これだけは知っておきたい、こどもからお年寄りのアトピー性皮膚炎」

講師　青山 裕美先生
川崎医科大学皮膚科学 教授

日時 11月23日(金)(祝)　**場所** 岡山県医師会館 三木記念ホール
岡山市北区駅元町19番地2号 TEL.086-250-2100

●開場／10時　●講演会／10時30分～11時30分

※講演会終了後、皮膚病無料相談を行います。受付は11時30分までです。

入場料無料
定員 300名
（申込不要）

共催／日本臨床皮膚科医会岡山県支部、マルホ株式会社
後援／厚生労働省、日本医師会、NHK、岡山県医師会皮膚科部会、岡山県皮膚科医会、NPO 専門医による皮膚病診療支援ネットワーク岡山
提供／マルホ株式会社

問い合わせ先／日本臨床皮膚科医会岡山県支部　TEL.090-5707-3271（平日9時～17時）

企画・制作／山陽新聞社広告本部